

Narashino International Association



NIA SQUARE ファウエア

Quarterly News

第62号

2003年6月1日

習志野市国際交流協会

- Special
- What's New
- Report
- Report

ナマステの国、ネパール王国から
人生は魚と共に
上海も杭州、蘇州の旅、他
N.I.A.の事業について

N.I.A Youth

Who's who

Challenge

毎月第二土曜はSSサロン♪

こんにちわ・コンニチワ

ザ・英文クロスワード

くに おうこく ナマステの国、ネパール王国から

ナマステ！

皆さんナマステと言う言葉を聞いた事がありますか？ネパールでは毎日の挨拶に頻繁に使われています。「おはよう、こんにちは、こんばんは、さようなら」を意味する便利な言葉です。

国土：さてネパールを知っていますか？多くの方がチベットと混同しているようです。チベットとは隣同士ですが、チベットは中国の一部であり、ネパールは独立国で、大国の中国とインドに挟まれた南北180km、東西850kmの細長い形の国です。正式国名はネパール王国、王様が存在します。首都はカトマンズで、国の面積は14.7万km²、日本の北海道、九州、四国の三つを合わせた大きさです。人口は約2300万人。

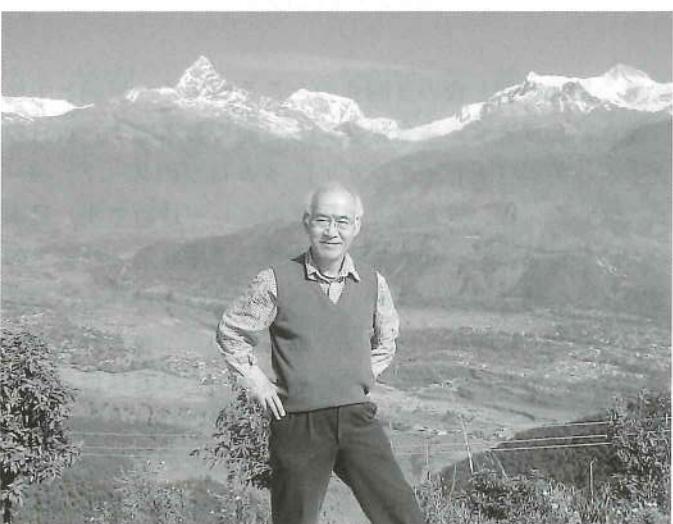
国旗：ネパール王国の国旗は世界でも珍しい形です。長方形ではなく、三角形がタテに二つ重なり、横にすると二つの山があるような形です。その二つの三角形の中にそれぞれ、月と太陽の絵が描かれております。月は王室。太陽は首相一家を現します。両方で国の永遠の繁栄を象徴すると言われています。

ヒマラヤ：ネパールで連想されるものは、なんと言っても世界一高い山、エベレストでしょう。ネパール語では「母なる大地の峰」という意味の「サガルマータ」と呼ばれております。ヒマラヤという言葉もよく耳にします。毎年雪を頂く6000~8000mの山脈がネパールの北部を東西に、約1000km走っています。世界の屋根と呼ばれ、世界中の登山家がエベレストの頂上を目指してこの国に集まって来るのです。ヒマラヤには3000mから4000mの高地に住んでいる民族もいます。その人々が生活に使っている道を自然に触れながら、楽しみながら歩くという、登山より気軽なト

レッキングを目的にした観光客もたくさん訪れます。
気候：ヒマラヤというと寒いところを想像しがちですが、ネパールの緯度は日本の奄美大島とほぼ同じくらいの位置で、亜熱帯気候に属します。1年は雨季と乾季に別れ、雨季は5月下旬から9月下旬、乾季は10月から5月上旬です。乾季には山が見えやすく、観光に適しています。気候は地域により異なりますが、比較的温暖です。

地形：標高は低いところは海拔60mから始まり、高いところはエベレストの8848mまでと、狭い国土の70%は山岳が占め、険しい地形ですが、湖、山、紺碧の空、美しい豊かな自然のたくさんある国です。南部の平野にはジャングルがひろがり、ゾウやサイ、珍しいベンガルタイガーなどさまざまな動物が生息しております。

宗教：宗教は、世界で唯一ヒンドゥー教を国教としています。仮想の生まれた国という誇りもあり、仏教徒も少数存在し、仲良くやっている様です。ヒンドゥー教徒が、仏教



ヒマラヤの山々をバックに

の寺に参拝する事もあるそうです。ネパールでは町のあちらこちらに、お寺や仏塔があります。日本の家に神様や仏壇を祭るのと同じように、家の屋上や部屋の中に神様が祭ってあります。朝は神様へのお祈りから一日が始まるといったように、宗教が人々の生活に浸透しているということがよく伺えます。

お祭り：ヒンドゥー教にはたくさんの神様がいて、それぞれの神様にちなんだお祭りもあります。農耕儀礼や天文暦学に関するもの、人生の節目に行う儀礼など含め、年間約50ものお祭りがあります。中でも一番大きなものは「ダサイン」というお祭りです。日本で言うとお正月のようなもので、ネパール人にとっては大事なお祭りのひとつです。ネパール人は大変お祭りが好きで、家族、親戚、友人みんなでお祝いをします。ネパールの暦はビクラム暦といわれる太陰暦を使用し、休日は土曜日で、お祭りの日取りは月の満ち欠けを基準としているので毎年日にちが異なります。

民族・言語：ネパールには約36の民族があり、70以上の言語があるといわれます。公用語はネパール語です。ほとんどのネパール人はネパール語と自分の民族の言語を話します。日本で言うと標準語と東北弁というところでどうか、単語ひとつにしても、まったく違う話し方になることもあります。



地元の人々との交流

食事：食事は朝と夜の2回食のところが多く、早朝と午後に軽食をとります。主食は私たちと同じお米です。毎日の食事は「ダルバート・タルカリ」。ダルは豆のスープ。バートは炊いたご飯。タルカリは野菜のカレー炒めです。日本のごはんに味噌汁、おかずという感じですね。スパイスの効いた食べ物が多いですが、すべてが辛いというわけではありません。インド、チベット料理の混ざった食事もネパールならではという感じです。ネパールでは昔は皆スプーンやフォークなどを使わず、右手を上手に使って食べていました。今でも手で食べる人はいます。その方がおいしいという人もいます。皆さんもネパールを訪れた時は是非、試してみてください。ただし右手だけで食べてください。

ひだりて ふじょう
左手は不淨の手といわれ、食事などには使いません。
文化：カトマンズ盆地には今も残る彫刻、建築、文学、絵画、舞踏などの優れた文化があり、町の至る所に建築、彫刻の美しいものが残され、町は美術館のようです。

教育：教育制度は1年生から5年生までが小学校、6・7年生が中学校、8年生から10年生が高等中学校となっています。農村部では家庭が貧困なため、両親が子供を労働力としていることが多く、子供を退学させたり、授業を受けず、働く子供も多くいます。識字率は成人でも40%、女子では25%しかなく、女性に教育は不要という意識がまだ根強く残っております。

経済：国民所得が一人当たり年240米ドル（約28,000円）02年と極めて貧しく、発展途上国に分類されています。資源に乏しく、財政面では開発予算の70%を外国援助に依存しております。ネパールは農業国で、国民のほとんどが農業に従事していますが、農業の分野でも開発は遅れています。

医療：ネパール人の平均寿命は男性64才、女性58才と世界でも珍らしく女性の方が男性より短命です。女性は子供を産んですぐに厳しい労働を強いられること、医療の発達の遅れや栄養状態などにも原因があります。ネパールは世界で最貧国のひとつに数えられ、経済や医療の面で多くの国の支援を受けています。足りないものもたくさんあります。例えば、皆さんの場合、ケガをした時、病気になったときに行く病院が家の近くに必ずありますね。ネパールには病院のない地域はたくさんあります。へびにかまれ、手当ができなくて死んでしまう人も少なくありません。子供たちは非衛生的な水を飲んで、下痢で死んでしまうこともあります。

口腔衛生知識が低く、歯磨きをしたこともない人、歯ブラシを見たこともない人もいます。虫歯は悪い虫と良い虫がいて、悪い虫が虫歯になるということを信じている人もいます。歯医者のいない村では、歯が痛くなると鍛冶屋に行ってペンチで歯を抜いてもらいます。ネパールには歯科医が人口2300万人に対し240人しかおらず、絶対数が足りません。歯科医療は特に遅れており、手や足がなくては生活するには不自由ですが、歯が一本や二本なくても生活にあまり不自由はしないという考え方のせいかかも知れません。しかし、歯は食べ物を噛んでからだに栄養を吸収させるという重要な役目があることを考えると大切にしなければなりません。虫歯に苦しんだ経験を思い出してみて下さい。ネパールの人々はそのような状態になっても、歯医者のいない村では誰も治療はしてもらえない。せめて歯磨きの知識、虫歯の知識が広まれば、虫歯の痛みに苦しむ人は減ります。

そんな思いから、歯科医療に従事する人を増やし、歯科医のいない地域で歯磨き、虫歯予防の知識を教える人を育てる為に、歯科衛生士学校を作ろう。そして、無医村地域で歯科検診をする活動（デンタルキャンプ）を多く行おう、

うんどう
といふ運動がおきました。それを日本のN P O グループも
ネパールの歯科医療の向上を願い、支援しております。歯科衛生士学校を卒業した学生はネパールの人々のために、
自分の故郷で口腔衛生の知識を広め、技術を生かし、働いています。若い人々が自分たちの国のために、人々のために働く気持ちが少しづつ国を良い方向へと導いていくのではないでしょうか？

さて私は習志野市内で歯科医として、仕事をしています。この仕事を始めてから30年程たちますが、最近「ネパールでは歯科医の数が足りなく、国民が歯科医療を受けられなくて困っている」とのNHKのニュースを見ました。そこで歯科医としてネパールの国民の歯科医療を手伝いたいと考えました。早速、ブッディ・パンガラというネパールの歯科医療を支援するNPOの団体に入会しました。ブッディ・パンガラとは、ネパール語で親知らず（智歯）と言う意味です。昨年（平成14年）11月にネパールに初めて行きました。その時のお話を致します。

「百聞は一見にしかず」と言う諺があります。私は旅行が大好きで、今まで今迄あちこちに行きました。初めての国に行く度に、この諺は正しいと実感致します。ネパールに行く時も、少しの不安と沢山の期待とで胸を膨らませて行きました。最初の数日は、首都のカトマンズで働きました。後の数日はポカラと言う風光明媚な所で働きました。現在前述のように、ネパール全国に約240人の歯科医（人口2300万人に対し）しかいませんが、隣のインド等で勉強して来た歯科医とインド等から出稼ぎに来た歯科医療従事者で構成されています。ネパールの歯科大を卒業した歯科医はまだいません。私の働いた診療所は2カ所とも、日本から寄付された歯科機材が豊富でした。勿論完全とは行きませんが、日本での診療と、それ程の大きな差はありませんでした。でもここでの歯科診療レベルは例外で、ネパールの標準的なレベルは、とても低いとの事でした。健康保険制度は現在ありませんので、ここでの診療を受けられるのは、ごく一部の裕福な人々に限られているようです。

カトマンズでもポカラでも、歯科医や歯科衛生士たちは



ネパールでの診察

仕事にとても真面目で、私から多くの事を学ぼうと一生懸命でした。私の診療をじっと見つめ、多くの事を質問してきました。残念ながら言葉の壁があり、正確に自分の意思を伝える事は、大変でした。もっともっと英語力が必要だと痛感しました。読者の学生諸君も、将来ますます進む国際化に備えて、語学力を磨いて下さい。彼等ネパール人は、日本人に比べ英語力はかなり上です。殆どのタクシーの運転手でも英語で意思が伝えられます。診療所のスタッフ達は、私より遙かに流暢な英語を使っていました。

カトマンドゥは東京と同じく活気のある大都会ですが、道路には車が溢れ排気ガスがひどく、目や喉が痛くなりそうな位でした。しかし各種のレストラン、伝統的な舞踏や歌を楽しめるお店等豊富です。印象的な店の一つに日本のカラオケと少し似た店がありました。違いは客と舞台の歌手とが即興の歌詞を交え延々と歌いあうことで、大変な人気でした。一方カトマンズから西へ200kmのポカラは、ヒマヤラを間近に仰ぐ風光明媚な静かな町です。車の騒音や排気ガスに悩まされる事もなく、私はとても気に入りました。中でも白雪に輝く7000~8000mのアンナプルナ連峰を間近に見上げる迫力は息をのむ程です。残念ながら常に見える訳ではなく、天気の良い空気の澄んだ日が良いのです。

ある日の夕刻、その条件が整ったので、診療の合い間に外に出たところ、正に目の中に飛び込まんばかりに、アンナプルナ連峰が姿を現しました。診療の合い間である事も忘れ、しばし呆然と魅入られました。この時の感激も忘れられませんが、それ以上の感激を受けたお話を最後の結びとしたいと思います。ポカラ最後の日、あまりに良い天気でしたので、大好きなアンナプルナ連峰を見に近くの丘に出かけました。少し長居をし過ぎて診療所に到着したのは、12時を回っていました。私は帰りの挨拶をするつもりで立ち寄ったのですが、診療所のスタッフは私の到着をいまや遅しと待っていたのです。何処をほっつき歩いていたのかと、怒らんばかりです。すぐにその訳が分りました。彼等は私のために、お別れパーティーを用意してくれたのです。中庭にテーブルと椅子を並べ、ささやかではありますが、心のこもった食事でした。大好きになったアンナプルナ連峰のパネル、ネパール帽子を手作りの花輪を添えて頂きました。不覚にも、お礼のスピーチも満足に言えない程、ウルルンしてしまいました。こんな感動を味わったのは、何年ぶりでしょうか？歯科医で良かった、ネパールに来て良かったと、心の底から思いました。国境を越えてその國の人々と心の結び付きが出来た時ほど、嬉しい事はありません。皆さんも国際交流協会の活動を通じ、こんな体験を数多くして下さい。

追記：この記事の前半は、ブッディ・パンガラ日本の会長：渡辺容子氏に執筆を依頼しました。ネパールの詳しい情報や、ブッディ・パンガラ：ネパール歯科医療を支援する会については、メールでお問い合わせ下さい。

Mail: buddhibangara@hotmail.com

世の中に魚好きという人はたくさんいらっしゃいます。しかし、これほどの眞の魚好きという方は珍しいでしょう。魚類の博士でいらっしゃる須之辺氏は、同じくハゼの研究をされている天皇陛下に、世界初の発見をしたご自分の研究について、ご説明した経験もお持ちです。

(編集部 葦場 あさみ)

魚とのつきあいはかれこれ40年になります。今でも覚えているのですが、幼稚園児の頃、家にあった「魚貝の図鑑」をふと手にして魚の絵を目にしたとたん、なぜか「これだ！自分は魚が好きなんだ！」と頭に衝撃が走ったのです。それから魚一筋の人生が始まりました。大学では水産学部に進学し、現在は博物館で魚の研究をしています。魚を通じて色々なことが経験できました。ここではそんなできごとのいくつかを紹介します。

魚を飼い始める

幼い頃、東京都国分寺市に住んでいた私は、魚がたくさん棲んでいる海にとても憧れました。国分寺は習志野と違い、海が遠い東京の西にあります。小学1年生の時に母が江ノ島に連れて行ってくれました。海を見たのはその時が初めてです。海にはなかなか行けないので、魚の好きな同級生と多摩川で川魚を捕って池で飼いました。



それでも海の生き物を飼いたい、という思いがつのり両親にねだり3年生の時に海水魚用の水槽を手に入れたのです。しかし、当時の飼育設備は粗末で、魚を入れてもすぐに死んでしまい悲しくなったことが何度もありました。それでも色々工夫してうまく飼えるようになりました。この時の経験は、今でも研究をする上で役に立っています。

大学進学、九州へ

大学受験を迎え、どうしても魚にかかる職業に就きたり、大学は一も二もなく水産学部を選びました。また、親元からも離れたくなり、それもできるだけ遠い場所に行きたかったので、鹿児島大学水産学部を受験し合格することができました。

鹿児島に行き何よりも嬉しかったのは、歩いて行ける

距離に海があることでした。水中めがねをつけて潜ると南国特有の熱帯魚が泳いでいます。講義も一日中海洋生物に関するもので、高校の授業が嫌いだった私も楽しむことができました。乗船実習で東シナ海を航海し、トロール漁業も経験しました。

大学での研究、そして世界初の発見を

大学を卒業後、同じ鹿児島大学大学院修士課程に進学しました。大学院というところは講義もほとんどなく、好きなように魚の研究ができました。研究はうまくいきましたが、当時の鹿児島大学には修士課程（2年間）しかなく、研究を続けるため福岡にある九州大学の博士課程のコースに進学しました。学校は福岡に移りましたが、鹿児島の魚を引き続き研究するために鹿児島県の枕崎の近くに家を借りました（なんと四畳半の部屋が5つもある一軒家で月5千円という破格の条件でした）。

大学院時代の研究テーマは、「ハゼ科魚類の婚姻システム」というなんとも風変わりなものです。ハゼは東京湾でも秋になると釣り上げて天ぷらにするので有名ですが、実はハゼの仲間はとても種類が多く世界で二千種以上あります。沿岸部に生息するので観察もしやすく、飼育も簡単なので研究対象として適当です。私が研究に選んだ種類はオキナワベニハゼという四国から沖縄にかけて分布するオレンジ色をした4センチほどの魚です。魚にも私たち人間と同様に社会があり、種類ごとに特有の婚姻関係があります。オキナワベニハゼは枕崎の岩礁地帯にたくさん生息しています。アクアラングをつけて潜水して60個体近くを体の模様で個体識別し、雌雄のつがい関係を調べたのです。



ここにちは。オキナワベニハゼです。

結果はとても興味深いものでした。このオキナワベニハゼは、1尾の大きな雄が複数の小さな雌とつがいになる一夫多妻の社会だったのです。しかも、雄を取り除くと最も大きな雌が性転換をして雄になり、他の雌を引き継ぎました。また、サイズのちがう雄どうしを同居させ

ると、小さい方は性転換して雌になってしまいました。つまり体の大きさで社会順位が決まっており、優位な方が雄、劣位が雌で順位の変動とともに雄にも雌にも性転換するのです。この両方向の性転換は魚では世界で初めての発見でした。研究の面白さは、こういう初めての発見が自分でも可能だということではないでしょうか。

社会順位による性転換は他の魚でも知られており、例えばイソギンチャクとの共生で有名なクマノミでは、オキナワベニハゼとは逆に大きくて順位が高い方が雌で、小さい劣位の雄は雌にいつもいじめられています。そして雌が老衰などでいなくなると順位が高くなり、晴れて雌に性転換します。

最近、環境ホルモンによる雄化、雌化が話題になっています。これは人間が作り出した化学物質によって、性転換をしない種で性が変わってしまう異常な現象です。オキナワベニハゼやクマノミは自然の摂理として性転換をします。私たちは、男と女は全くの別物と考えがちですが、性転換の研究をしていると両者の垣根はもっと曖昧なものに見えてきます。

千葉に就職、そしてアフリカへ

博士号取得後1年間は、就職活動でした。そして1991年に、幸運にも研究がかなり自由にできる千葉県立中央博物館に就職できました。そしてこれまた運がよいことに、1993年には文部省国際学術研究の一員としてアフリカのタンガニーカ湖魚類調査に参加することができました。

タンガニーカ湖は面積が九州くらいの大きな湖で、たくさんの種類のカワスズメ科魚類があります。私が興味を持ったのは、このカワスズメ科の繁殖行動です。海の魚だと卵は産みっぱなし、保護をする種でもほとんどは雄が孵化までつきそう程度です。ところがカワスズメ科では、両親が孵化後もかなり大きくなるまで保護を続けます。さらに大きくなった子供が自分の妹や弟の世話をする「ヘルパー」が存在する種もあります。このような興味深いカワスズメ科をぜひ研究してみたいと考えました。



タンガニーカ湖にて

1993年8月下旬から4ヶ月の予定でタンガニーカ湖北端の国ブルンジに3人の調査隊で出発しました。ブルンジはアフリカの真ん中にある、面積が四国ほどの小さな

国です。私も行くまではそんな国があることさえ知りませんでした。ブルンジは平和で物資が豊かな国でした。湖から揚がる魚や、主食のウガリ（キャッサバの粉をお湯で練ったもの）をおいしく食べました。調査には、ジユリドクロミスという日本の熱帯魚屋でも売っている白地に黒い斑のある美しい種類を選びました。石の下に巣があり、ペアで子供を育てています。面白かったのは1尾の雌が2尾の雄を掛け持ちしていることでした。動物の世界では珍しい一妻多夫ということです。そこで、このことをもっと調査したいと考えた矢先に、大変な事件が起こりました。

滞在して2ヶ月後の10月21日の明け方、パーンという銃声とズシーンという地響きで目が覚めました。海外青年協力隊の日本人から電話があり「クーデターが起きて市内は戦闘状態」とのこと。多数派のツツ族政権に対する少数派のツチ族が反乱を起こしたのです。その後から電話は不通、停電も続き、治安の悪化による強盗の侵入におびえながら何日も心細い思いをしました。好きなものを食べたり外出を楽しむ普段の生活ができなくなりました。調査を続けるなど不可能な状態になり、1週間後には海外青年協力隊のご厚意でベルギーに脱出して帰国の途につきました。それにしても、平和な国がたった一晩であっけなく戦争状態になったのは信じられないことでした。今でも平和な日本に着いた時の、あの夢でも見ていたような気分を忘れることができません。（この後、もう一度アフリカに行きたい、という思いがつのり1995年にタンガニーカ湖南端の国ザンビアに調査に出かけています。）

習志野の子供たちへのメッセージ

魚を通じて様々な場所で色々な経験ができます。どんなことでも一つのことをずっと続けることで、今まで知らなかったことに気がつきます。例えばブルンジの出来事は、日常生活が当たり前にできる平和のありがたみを教えてくれました。また、海外の友人もたくさんできました。これからも新たな出会いを求めて、どこでどんな魚を研究しようかと考えています。

現在は家族と鷺沼で生活しているので、茜浜や谷津干潟によく散歩に行きます。海をぼんやりと眺めながらハッと気がついたことがあります。それは「習志野の魚」については殆ど研究がされていないことです。実は東京湾は様々な法規制により容易に潜水することができません。九州やアフリカの魚は研究できても、自分が住んでいる所の調査ができないのは妙な話です。なんとかして、「習志野の魚」の研究ができるのかと計画しているところです。世界的な視野を持つつつ、地元をしっかりと見据えるような視点が大切ではないでしょうか。

上海、杭州、蘇州の旅

習志野市棋友会 相徳

去る2月14日高齢者福祉センター内、「芙蓉園」棋友会将棋部の会員9名で中国上海、杭州、蘇州5日間の旅に出ました。第一の目的は16日の上海将棋学校主催による子供将棋大会に出席する事でしたので、それに合わせてツアーを組んで貰いました。中国へ行った事のある人は3名、他は中国旅行がはじめての人達ですので、まず、出発前に自分の名前の中国語読みを学びました。日本と中国は同じ漢字を使いますが、その読み方が違いますので、中国語で呼ばれた時に、自分が呼ばれている事がわからないようでは、困ると思いそんなことからはじまつての旅でした。

成田発9時45分の全日空で上海着12時5分（上海時間、日本との時差は一時間）上海での宿泊予定になっているホテルに荷物を置き、一泊分の着替えを持って、上海駅へ向かいました。中国では春節と言って旧暦で新年を祝いますので、今年は2月1日が元旦に当たります。休暇は2週間という事なので2月14日はその最終日とあって上海駅は大混雑でした。それに運悪く雨が降っていましたので駅周辺はなおさら大変でした。我々の専用車は駅前少し離れた所に着き、そこから駅の待合室まで大混雑の中国人の間をぬうようにして、やっと待合室にたどり着いた時には、7名とガイドが1名。心臓が止まる思いで雨の中にとび出し探し廻り残り2名の方と一緒に待合室にもどった時には濡れネズミ。肝を冷やし、体を冷やして列車に乗り2時間。夕方杭州へ着き黄龍飯店（ドラゴンホテルとも呼ばれている最高級ホテル）へ向かいました。翌日は市内観光。錢塘江の北岸月輪山の上に建つ六和塔へ行きました。高さ60mほどのレンガと木で造られた八面体のどっしりとした塔で外から見ると13層だが塔内は7階まで。頑張って上まで登ったら各階から外を眺めることができ、目の前にある錢塘江（杭州の南を流れ、その本流の長さ410kmの浙江省第一の大河）の眺めは、まさに中国の水墨画そのものの絶景でした。次有名な西湖へ。中国全土に西湖と名のつく湖は30ヶ所以上あるが最も美しいのが杭州の西湖。杭州が地上の天国と称えられ、昔から多くの詩に詠まれているのもこの西湖に負うところが多いとのこと。杭州のシンボル西湖を遊覧船で一めぐり。船内は中国人、韓国人、そして我々9名の日本人。船から見るまわりの景色は、これ又、水墨画のよう。雨に煙る西湖の美しさを満喫しました。そ

の日のうちに上海にもどるよう列車に乗りましたが列車を待つ間の待合室でも列車の中でも、将棋を指したのは、さすが習志野市棋友会会員。それを見た中国人はすぐ興味を持ち、（そのはずです。中国には誰もが知ってる中国将棋「象棋」があります。その駒の形、動き方は異なりますが基本的な考え方は同じです。）教えて欲しいと言われ、思いがけず、中国人との交流ができました。

上海での宿は、浦東にあるコートヤードホテルです。翌日16日（日）には午前中市内及び豫園見学の予定でしたが予定を変更して、9時に将棋大会の会場になっている上海青年文化活動センター（漢中路地下鉄駅ビル）へ行きました。すでに100名以上の子供達が集まっており、すぐ対局が始まりました。まず二勝した子供達が勝者として勝ち進みます。そこで二敗した子供達に指導対局がはじまりました。まだ習いだして間もない初心者も居りますが1月末に日本の将棋連盟で行われた将棋大会に参加するため来日した子達も居り、アマ2～3段の棋力を持った子も居りました。上海には、許建東と云う普及指導員の資格を持った人が上海将棋を建立、延べ2000人以上の子供達に日本将棋を普及させています。中国では将棋の強い子は、学校の成績も良いと云われ親達も熱心に



子供の将棋

応援し、学校でも授業中に将棋を取り入れ、単にゲームとしてではなく、将棋を通して礼儀作法又、相手を尊敬する気持ちを養う等に役立てていると聞いています。日本のプロ棋士も多く、指導のため上海を訪れている様です。我々は対局を終え、市内見学で豫園（明の永楽年間に建てられた廟）で500年余の歴史があり、上海を訪れた人はおそらく一度は立ち寄るところ）とその周辺の商場で日頃から大変にぎやかな所へ行きました。この日は春節の飾り付けがまだ残っており、一段とにぎわっていました。夜は許校長、陳副校長、夫々の家族、日本語学校で教官をしている日本人夫妻、プロ棋士所司六段達と会食。料理が多くて、美味しかった事、紹興酒の美味し

かった事等大変楽しい時間を過ごしました。最後に上海将棋学校の校長はじめ皆さんにこの歌を送りますと松田さんの歌「王将」そして全員で「北国の春」を大合唱、(中国の人は、ほとんど、この「北国の春」を歌います。)ここでも素晴らしい交流ができました。このあと、許校長の紹介でマッサージに行き全身マッサージ、或は足マッサージで夫々、旅の疲れを癒しました。

将棋大会参加を最優先にしたため、蘇州は翌日17日の日帰り観光となりました。杭州と並んで「天に極楽あれば、地に蘇州、杭州あり」と詠われている景勝地で蘇州は水路が多く、別名「東洋のベニス」と言われる美しい地。中国版ピサの斜塔「虎丘」世界遺産の「拙政園」そして、日本でも有名な寒山寺を観光、それぞれ印象に残りましたが、寒山寺の鐘楼で鐘をついた事は特に想い出として残ることでしょう。専用車で上海にもどり船上レストランで上海料理の夕食。目の前に外灘の美しい夜景を眺めて、コートヤードホテルへ。翌18日はゆっくりお昼の便で上海を発ち、16時50分全員無事成田へ帰ってきました。

Yummy !!

万尾 久子（編集部員）

今年もN.I.A.恒例のポットラック・パーティが3月15日（土）に催されました。Potluckとは、不意のお客様に出す有り合わせの料理、その持ち寄りパーティの事を言いますが、この日ばかりは各国の大御馳走がテーブル狭しと並びました。（と言っても手作りに限った物でないの

で来年参加しようと思う人も気楽に来て下さいね）まずは簡単な自己紹介と持参の品を説明し、後はどうぞお好きなようにと賑やかにパーティが始まりました。「ホームページを見て初めて参加したのですが...」という人も大丈夫。お喋りしたいという気持ちさえあれば、外国の方々は日ごろ勉強されている日本語を発揮され「うわー！日本語がお上手なんですね」と感心させられるばかりでした。「まだ1年半！」それでこの話しぶりと思うと、いかに語学は机上の学問でなく「話したい」という思いが重要であるかと実感させられました。どう



話すだけでなく、何を話そうかな、「お話ししましょう」の精神でまず最初の一聲を掛けることが大切んですね。

「あなたは中国から？」「えーとそちらの方は？」「私は日本人んですよ」と同じ日本人同士でも母国を越えてお互いを知るという事はなんて楽しいのでしょうか。あの人はどうな人かな、何がお手伝いできるかしらという所を出発点にすると、素晴らしい出逢いが待っているはずです。

今日は49名が参加し、日ごろ同じ会員同志でも各部会の様子が解からなかった方々ともお話をてきて、語学研修、お料理講習会、SSサロン等々、生の様子が聞け、「ああそんな事をしているのか、ちょっとのぞいてみようかしら」とそれぞれの部会の敷居も低く感じられ、ワイワイ、ガヤガヤと2時間があっという間に過ぎてしまいました。

今回のパーティで見つけた珍しい一品を紹介します。

ペラルーシ（ポーランドやリトアニアの近くの国）のブリニー（Блінны）

小麦粉、牛乳、卵、砂糖、塩等でいわゆるパンケーキに似た皮を作り、キャベツ、玉葱、しめじ、南瓜、卵等をサラダ油で炒めたものを巻き込みます。そして巻いた物を焼きます。

これは“厳しい冬にさよなら、春の太陽こんにちは”というペラルーシの春を迎えるお祭りの時に食べる伝統的なお料理だそうです。イクラ、キャビア、フルーツ等好きな物を巻くそうです。



春を告げる料理「ブリニー」

ペルーのNegrita（マサモラモラーダ）

紫トウモロコシ粉末を溶かして、片栗粉でとろみをつけ好みの果物を加えて食べます。ゼリーのようなジュースのような。とうもろこしはペルーの原産で、日本でお馴染みの黄色ばかりでなく紫色の紫とうもろこしを良く食べるそうです。これは、子供のおやつにもよく登場するそうですよ。

それぞれのお国を思い描きながら頂くとおいしさも格別です。

新しい役員が決まりました。よろしくお願ひいたします。

さる、5月17日（土）2003年度の総会が、開催されました。

本年度は、役員改選の年にあたるため、本総会において新理事・監事の選出が行われました。その結果、新役員が下記の通り決定しました。

役員は、今後会員の皆様や市民の方々の声を参考にして、国際交流協会の全体の運営等に携わってまいります。また、各理事は、各部会（8部会）の核となり、会員の皆様と一緒にになって具体的な活動に取り組んでまいります。習志野市の国際交流活動が、今後益々活発になるよう、役員一同頑張ってまいりますので、会員の皆様、是非ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

任期2003年5月17日～2005年5月16日

役名	担当職	氏名	備考	役名	担当職	氏名	備考
理事	会長	白鳥 純	再任	理事	在住外国人交流部会長	栗原 七郎	新任
理事	副会長	澤 滋夫	再任	理事	ボランティア部会長	山崎 美知代	再任
理事	副会長	川端 幸雄	再任	理事	青少年部会長	永坂 香奈	新任
理事	姉妹都市友好部会長	木下 伊津子	新任	理事	教育長	松盛 弘	再任
理事	交流部会長	林田 陽二	再任	理事	校長会代表	佐々木 幸雄	再任
理事	情報部会長	館川 裕	再任	監事		井上 定則	新任
理事	比較文化部会長	志知 美智子	新任	監事		山口 博	新任
理事	語学研修部会長	勝又 陽子	新任				

あなたも挑戦して見ませんか。手軽で美味しいイタリアン料理を

先日〈4月19日〉菊田公民館において、本協会比較文化部会主催の第13回世界の料理教室が、開催されました。

今回の講師は、市内在住の川口フランカさんにお願いし、3品のイタリアン料理を教えていただきました。もちろん、どれをとっても美味しく、参加された方は大満足。では、ここでその中の一品を皆さんにご紹介しましょう。

CARPACCIO DI PARMIGIANO REGGIANO AI GAMBERETTI

パルミジヤーノ・レッジヤーノのカルパッチョ、小エビ仕立て

材料 <4人分>

・小エビ 1kg	・ルッコラ 2束	・パルミジヤーノ・レッジヤーノ〈薄く切ったもの〉 200g
・レモン 3個	・塩 コショウ 少々	・エキストラ ヴァージンオイル 適量

作るポイント

- ① ルッコラをよく洗って放射状に皿に盛ります。
- ② レモンをしぼっておきます。
- ③ 小エビを茹で、殻をむき、たてに半分に切り、ルッコラの上にならべます。
- ④ その上に先ほどしぼったレモン汁をかけ、塩コショウで味を調えます。
- ⑤ さらにこの上をおおうように、けずったパルミジヤーノを均等に並べます。
- パルミジヤーノは、出来ればかたまりのものを購入しここでけずっていた
だくとさらにおいしくなります。
- ⑥ 最後にオリーブオイルをかけて出来上がりです。



Buon appetito!

料理教室では、その後みんなでつくったお料理を試食しながら楽しい交流が行われました。

比較文化部会では、今後も世界の料理教室を開催する予定です。是非皆様の参加をお待ちしています。

N.I.A. 2003年度事業計画 (事務局)

習志野市国際交流協会（N.I.A.）は、本市が1986年にアメリカ合衆国アラバマ州タスカルーサ市と姉妹都市提携を行ったことを契機として、1987年7月18日に設立されました。よって今年度は、創立16年目にあたります。

本協会は、創立以来「習志野市における国際交流を積極的に推進することにより、国際親善及び国際理解を図り、もって習志野市の国際化に寄与すること」を目的に具体的な活動をしてまいりました。

特に1999年からは、組織の改革により本協会は、自主運営がなされるようになり、会員一人ひとりが、自らの手で世界の人々とさらに積極的な活動（例　日本語ボランティア・比較文化交流事業・交流活動等）を開拓するよう努めてまいりました。これによりいろいろな場を通して、国際交流を図り、国際親善、国際理解の一役を担ってきています。

本年度の主要事業は、理事会等を通して審議し、下記の通り決定いたしました。今後各部会では、これらの事業を具体化させ、実施に移してまいります。また、会員の方々や在住外国人、市民の方々からの新たなニーズがあれば、前向きに受け止め、取り組んでいきたいと考えています。

会員の方々の積極的な参加とご協力を心からお待ちしています。

2003年度主要事業

月	総務	姉妹都市交流部会	交流部会	情報部会
4	理事会監査	アラバマ大学英語研修の検討(成人対象)	国際交流フェスティバルの検討	編集会議(毎月1回) ホームページ作成(通年)
5	総会		会員のつどい	
6				N.I.A.スクエア62号発行
7				
8				
9				N.I.A.スクエア63号発行
10	理事会			
11			バーベキュー大会	
12		タ市、桜まつり、俳句、絵画の募集		N.I.A.スクエア64号発行
1	理事会		新年会、餅つき大会	
2				
3				N.I.A.スクエア65号発行

月	比較文化部会	語学研修部会	在住外国人交流部会	ボランティア部会	青少年部会
4	世界の料理教室 イタリア(4/19)		日本語ボランティア事業(通年) 初級(月、水、木) 中級(月、水) 漢字教室(火) 小中学生(土) 講師会(例月) あすなろ会(月、水)	ALTと語ろう (月、通年) 学校派遣 (外国人ボランティア) 通訳派遣	SSサロン(例月)
5			サンバチーム結成		フィリピン文化体験
6	世界の料理教室		ミニハイク		
7			市民まつり サンバチーム参加 七夕まつり		
8					花火大会
9	日本文化セミナー	日本語ボランティア養成講座開講			
10	講演会	同上	講師研修会	研修会	バスツアー
11	世界の料理教室	同上	ミニハイク		
12		日本語ボランティア養成講座終了 日本語ボランティア実践説明会			クリスマス・パーティ
1	日本文化セミナー		新年茶話会		
2	世界の料理教室			研修会	お菓子教室
3	ポットラックパーティ		スピーチ茶話会		

みなさん！SSサロンをご存知ですか？？SSサロンとはSecond Saturdayの略で、「毎月第2土曜日在住外国人と日本人青少年が交流できる会を開いてはどうか？」という案を基に2002年の5月から始まりました。

昨年度は、NIA事務局で坊主めくり、イス取りゲームなど誰もが知つていて楽しめるゲームやクリスマス会をしました。そして、なんと！昨年のクリスマス会の参加者は44名でした。また、屋外での活動もしました。大久保にあるパークゴルフ場でパークゴルフ大会（ミニゴルフ）や花火大会。2月には長年の目標であった「新横浜ラーメン博物館&横浜中華街バスツアーア」をしました。企画・運営などすべて青少年部会員が協力してやっているため、どうなるか心配でしたが、とても楽しい1日遠足になりました。



バグパイプを演奏するカール君

そして！青少年部会では今年もSSサロンを毎月1回第2土曜日に行う事にしました。記念すべき！2003年度初のSSサロンでは、茶話会をしました。今回はビッグ☆ゲストである青少年部会の渡邊君と彼の友人でオーストラリアからの留学生であるカール君がギターとバグパイプの演奏をしてくれました。渡辺君はクラシックギターで『In sorrow's wake』と『Sunburst』を演奏してくれました。クラシックギターはピックではなく、つめで弦を弾いて音をだすそうです。カール君が演奏してくれたバグパイプとはスコットランドの楽器で羊の皮からできています。思いきり息を袋の中に吹き込むと音が鳴るしくみになっていました。バグパイプの音は哀愁を帯びた素敵なお色でした。少し緊張気味だった参加者も素敵なお色を聞き徐々にうちとけてきました。参加者は16名と若干少なめでしたが、異文化理解を深め、新しい友達を作るいい機会になりました。参加者の出身国は日本、中国、オーストラリア、フィリピンでした。

今年のSSサロンの予定を紹介します。まだ全て決定ではないのですが、興味を持っているイベントを見つける方、色々な国の出身の人と話がしたい方、性別・年齢問わずどなたでも大歓迎です！みんな始めは、緊張していますが、SSサロンが始まると笑顔になり、会話も弾むこと間違いない！SSサロンについては青少年部会のホームページをぜひチェックしてみてくださいね（^_^-）



次の企画は…。

今 年 度 の 予 定

4月12日	茶話会	10月11日	バスツアーア
5月10日	初級フィリピン語 パンブーダンス	11月8日	学習会
6月14日	パークゴルフ大会	12月13日	クリスマス会
7月12日	初級韓国語	1月10日	学習会
8月9日	花火大会	2月14日	バレンタイン♡クッキング
9月13日	学習会	3月13日	学習会

会員紹介／こんにちは、コ・ン・ニ・チ・ハ／みなさん、どうぞよろしく！

すてきであります 素敵な出会いがいっぱい



うえのあやこ
上野綾子

わたし 私は今、NIAで子どもたちに日本語を教えています。「異文化が濃い社会で暮らすには自分の文化を持ちつづけたままで、その、異文化をも理解しようとななければならない。それは決して一人でできることではない。私にも何か日本に暮らす外国人、異文化を持つ人々の手助けができるのか」とNIAの扉を叩いたのが半年前です。

NIAでは色々な人々との素敵なお出会いがあります。最初、日本語を教えることに自信が無かった私を暖かく受け入れてくれた誉め上手のフィリピンの女の子がいます。フィリピンの文化をたくさん話す代わりにいつも「日本ではどうなの？先生は？」と文化を知ろうとし、吸収していました。

は 果たして日本語を教えられたのかと悩むこともあります、日本を知る度目かのスタートとなったことを信じます。文化と言葉を相互に理解し合おうとすることには楽しさと難しさがあります。一生懸命学び取ろうしてくれる子どもたちを前に、私も今、日本語の教え方をあらためて学んでいます。

オペラは生活の一部です



バンダレンカ・アラ（ベラルーシ出身）

7年前の1995年9月、ベラルーシからご主人（エンジニア）の会社の関係で来日しました。その当時、彼女は妊娠9ヶ月という身重の体でしたが、10月の出産の際は、ご主人が側で付き添ってくれたので、何の心配も感じなかったそうです。「東京都港区の済世会病院に入院した時、窓から東京タワーが望め、嬉しかった」と語ってくれました。

バンダレンカ・アラさんには、2人の娘さんがいます。上の娘さんは、インターナショナルスクールに、下のお子さんは、袖ヶ浦西小学校（2年生）に通っています。「家庭では、数学、英語、ロシア語を教えたり、お勉強にあてる時間が多く、テニススクールやピアノに連れて行ったりします。」ご自身も、漢字の勉強をしたり、日本料理をテレビや本で学んだりしているそうです。「特に豆腐料理が好きで、サラダ風にしたり、アレンジ料理をしています。ベラルーシで豆腐レストランを作るのが夢なんです」とも。熱心に学ぶ姿がうかがえました。実は彼女、母国で仏語の教師をやっていたそうなんですね。習字にも挑戦してみたいとか。

ベラルーシは、ヨーロッパで一番森が多いことで知られているそうです。動物では、バイソン(bison)が国のシンボルドッグです。スポーツは、フットボール、器械体操が盛んです。

若い頃は、オペラやシンフォニックオルガンを聴きに行くことが生活の一部だったそうです。「ベラルーシのピアノのレッスン料は、週4回、1回45分間で月謝が600円ぐらいです。日本に比べると給料が安いから……。」日本のレッスン料の高さに驚いていました。（文：沼澤佳子）

故郷に帰ったら日本語で会話を！



ニコリーナ・バーナー（ガーナ出身）

1年5ヶ月前、習志野市に来ました。ご主人が、ガーナの野口英世研究所に20年勤務され、今回奨学生を得て、習志野市にある千葉工業大学大学院に留学されることになった為、2人のお子さん（13才の男の子と10才の女の子）をお姉さん宅に預かってもらい来日することになりました。

ご主人が少し前に来日し、日本の印象を「忙しい国。けれど人々は、とても親切」と伝えてくれたので、日本のイメージは良かったようです。日本の食べ物は、焼きソバ、刺し身（タコは嫌い）、モチ等が好きですが、ピーナッツ、納豆等の豆類はアレルギーがあるので食べられないそうです。

ガーナの家庭料理で一般的なものと言えば、ジョロフ(Jollof)があり、オニオン、トマト、ガーリック、カレー粉、胡椒を使った焼き飯が有名だそうです。キャッサバを使ったトマトスープなどもよく食べるそうです。

東京タワーには、1度行きましたが、ディズニーランドは、未だ行ったことがないので行ってみたいとか。「谷津コミュニティーセンターで月2回歌のレッスンに参加して、日本人の中に入り、交流を深め、楽しんでいますが、仲間の皆さんのがフレンドリーなので良かった。今度は生花に挑戦してみたい」と意欲を見せてくれました。

N.I.A.の日本語クラスは、去年の9月初めから受講し、当協会主催のお料理教室（インド料理）に参加されました。「来年の4月に祖国に帰ったら、あちらに在住している日本人の友達を作って日本語でお話しするのが楽しみです」と表情に明るさがありました。（文：沼澤佳子）

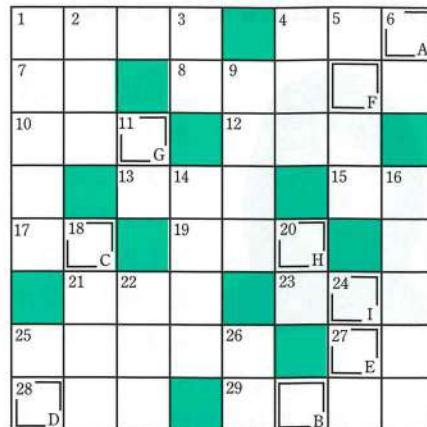
Let'sチャレンジ／ザ・英文クロスワードパズルNo.62/プレゼント付！

〈Across〉

- North Atlantic Treaty Organization
- The vessel in which Noah was saved from the flood.
- East Indies
- Never Ending Peace And Love.
- Covered or proofed vehicle for delivering goods by road.
- Detective
- Also, in addition, moreover etc.
- English Translation
- Radio Telegraphy
- I — all my friends were very glad to hear the news.
- Royal College of Surgeons
- He lives in a town, — I live in the country.
- State of freedom from and disorder.
- Milliliter
- Female of the domestic fowl.
- An opening for passage through a barrier, wall, fence etc.

〈Down〉

- An emphatic substitute for not.
- American Institute of Architecture
- London is situated — the Thames.
- Large, tailless monkey able to walk on two feet (e.g. A gorilla or chimpanzee).
- Contest or competition in speed (e.g. running, to see who can do best).
- Kiloliter
- Town on the Thames, 35km west of London. And in this town, there is the — College which is famous English public school for boys.
- A chemical symbol for Niton.
- Office of Alien Property Custodian.
- Name of a book, poem, picture etc.
- A woody plant commonly ten feet or more in height, with a single main stem (trunk) and a head of branches and leaves at the top.
- Day-Book
- Metal container for liquids, etc.
- Universal Military Training
- Pinch-Hitter
- For example, for instance



〈出題者〉 御園生 馨 (編集部)

〈応募要項〉

クロスを解いたあと、A~Hの文字をつなげてできたことばが正解です。

解答と住所、氏名、年齢、職業、電話番号、本誌の感想等を書いて送って下さい。解答は、ハガキ、FAX、Eメールで4月末日までにお送り下さい。

正解者の中から抽選で5名の方に、図書券をプレゼントします。

「N.I.A.スクウェア」編集部まで。たくさんのご応募お待ちしています。

日本語ボランティア養成講座の開講

在住外国人に日本語を教えていただくボランティア講師養成講座の受講生を募集しています。受講者は、当協会への加入と、養成講座終了後は、ボランティア講師として活動できる方に限定いたします。

講座は、週2回（火、金曜日）を原則に全30回、60時間です。

期間 9月2日(火)から12月16日(火)まで

時間 午前9時30分から11時30分まで

会場 サンロード6階大会議室他

受講料 7,000円（他にテキスト代5,000円程度）

定員 25名（多数の場合は抽選）

講師 手綱久枝さん

申込み 官製はがきに「日本語ボランティア養成講座希望」と明記の上、住所、氏名（フリガナ）、生年月日、電話、FAX番号を記入し、事務局へ。締切りは、7月31日(木)必着。

その他 協会加入は、年会費2,000円です。

編集後記

*インドネシア人の友達に空手大会に誘われました。彼女も参加することのこと。今までテレビ以外で見たこともありませんでした。先日はポーランド人の友達に誘われ、初めて築地の市場に行ったばかり。外国人に日本を紹介してもらっている、最近そんな不思議な体験をしています。（Y.K.）

*世界各国に美味しいものあり。お料理を通して知る文化、歴史の深さ、それぞれのかけがえのないオンラインを大切にしていきたいです。（H.M.）

*春は出会いと別れの季節とか言われますが、今年はここN.I.A.でも現実になりました。お世話になった先任者を感謝の気持ちで送り出した後は、新任者を希望と期待で迎え、今後のN.I.A.の発展を願うと共に、楽しいボランティア活動が円滑に出来る事を願う。（K.M.）

*自分が没頭できる研究を持つことができた須之部氏は小さい頃の夢を叶えることができ幸せだと思います。（N.I.）

*時には、山登りや魚釣りをしたり、将棋をしたり、バレエ音楽を聴いたりしてのんびり“My time”を過ごしたい。（K.N.）

前回の解答

〈解答〉 SHANGHAI

C	H	I	N	E	S	E
O	B	L	U	E		X
R	H	L	D		H	P
G	A	T		E	V	E
A	N	O	N		A	L
N	D	E	T		P	S
I	M	A	K	E		S
C	A	R	P	O	R	T

当選者

遠藤 里奈さん 小林 俊介さん

早原万紀子さん 篠塚 仁貴さん

中原 麗子さん 正解者は14名でした。

N.I.A.スクウェア・第62号

発行2003年6月1日/発行責任者・白鳥 純

編集・習志野市国際交流協会

編集責任者・館川 裕

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.seaple.ne.jp/nia>

<Eメール> nia@seaple.ne.jp